

## 第1回共用試験歯学系OSCE評価者養成WSI報告

著者	大牟禮 治人
雑誌名	鹿児島大学歯学部紀要
巻	32
ページ	85-86
発行年	2012
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/17060">http://hdl.handle.net/10232/17060</a>

# 第1回共用試験歯学系 OSCE 評価者養成 WS I 報告

大牟禮 治人

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科  
健康科学専攻 発生発達成育学講座  
歯科矯正学分野

2011年11月12・13日、朝日大学（岐阜県穂積市、写真1）で平成23年度第1回共用試験歯学系 OSCE 評価者養成ワークショップが開催されたので、研修内容について報告する。



写真1：研修施設（朝日大学）

## I. 目的

共用試験歯学系 OSCE 評価者養成ワークショップは、共用試験歯学系 OSCE において適切な評価を実施するため、評価者として必要な知識・技能・態度を習得するために実施されるものである。ワークショップは、さらにその中で内部評価者の養成を主な目的としたものである。

### 一般目標 GIO

共用試験歯学系 OSCE の医療面接系課題において適切な評価を実施するために、評価者として必要な知識・技能・態度を習得する。

### 到達目標 SBOs

1. OSCE 課題としての医療面接系課題の意義を説

明する。

2. 医療面接における3領域を説明する。
3. 人的資源（模擬患者）の役割を説明する。
4. 医療面接系課題のためのシナリオの重要性を説明する。
5. 評価の標準化の重要性を説明する。
6. 評価の標準化を実施する。
7. 評価マニュアルに基づく適切な評価を実施する。

## II. 研修内容

今回のワークショップのテーマは医療面接系課題の評価となっており、全国29大学歯学部から58名の教員が参加して行われた。ワークショップでは参加者は8つのグループに分けられ、グループ毎に医療面接系課題の評価基準の擦り合わせや評価マニュアルの見直しについて、実際の作業やグループ討議を行い、グループ毎の活動結果を持ち寄って全体討議を行った。ワークショップの内容は下記の通りである。

### （1日目）

セッション1：共用試験歯学系 OSCE ならびに医療面接課題について

（社）医療系大学間共用試験実施評価機構（以下機構）のタスクフォースから共用試験が実施されるに至った背景や現在実施されている共用試験の概要についての解説、そして評価者養成ワークショップの開催状況などが説明された。

セッション2：模擬 OSCE の実施、課題の理解と擦り合わせ、評価結果の分析

セッションの最初に各グループで模擬 OSCE を行い（写真2）、模擬 OSCE で得られた評価結果を題材として、評価者間で評価結果が不一致となる原因につ



写真 2：模擬 OSCE の様子  
医療面接系課題の模擬 OSCE を行い、参加者は交代で評価を行った。

いてグループ内で検討を行った。私の参加したグループでは評価基準の解釈や評価者間でどのように評価基準の擦り合わせるかが主に話し合われた。

セッション3：評価基準明確化のための具体的方策（評価結果の一致率向上のための具体的方策）

セッション2で抽出した原因に対する対策についてグループ内で検討を行い、評価基準がより明確になるよう解釈の補足を評価マニュアルに追記した。その後、セッション2および3についての全体討論が行われ、各グループがそれぞれの討議結果を発表し意見交換を行った。

（2日目）

セッション4：OSCEの実施、評価マニュアルの解釈のブラッシュアップ、評価の標準化のためのポイント  
2日目のワークショップもOSCEを行うことから始まった。このOSCEは事前に会場設営を行って本番さながらの雰囲気で行われた。模擬受験生は機構のタスクフォースが務め、評価には前日に各グループで補足を行ったマニュアルが使用された。OSCE終了後に評価結果を再度グループ内で分析し、前日に追記した評価マニュアルのブラッシュアップや想定問答集に対する追記などを行った。また、評価の標準化のため

に確認すべきチェックポイント等についても話し合われた。

セッション5

セッション5では、セッション4までに話し合った内容について各グループから発表が行われ、相互に討論や意見交換が行われた。このセッションでは模擬患者との意見交換の場も設けられており、模擬患者側からも事前に十分な擦り合わせが必要であるとの意見が出されていた。また、機構のタスクフォースからは受験生間の公平性や独立性などを含め評価に専念できる試験環境作りの重要性について説明があった。2日間のワークショップから導かれた評価の標準化のための主なポイントは以下の通りであった。

- ・大学ごとに自大学の教育実態を十分に理解し、大学内で教育内容を統一する
- ・内部評価者および模擬患者の十分なトレーニング
- ・シナリオと評価基準のブラッシュアップ
- ・外部評価者とのすり合わせ
- ・次年度OSCE担当者への引き継ぎ

Ⅲ. 感想

普段、教育に関する業務はルティーンワークになっている事も多く、それに関して他の教員と議論する機会は少ないことから、今回、歯学系OSCE評価者養成ワークショップに参加して経験した体験は非常に新鮮なものであった。ワークショップで議論を重ねて感じたことは、教育に関する課題の多くは鹿児島大学に特有のものでなく他大学でも同じような課題を抱えており、それらに対して多くの先生方が苦労を重ねながらそれらの改善に取り組まれているということでした。今回のワークショップのテーマである“評価”は、狭義には学習者（学生）に対して行うものであるが、広義にはそれを通して教員の資質向上や教育の方略、そして教育の目標につながるものであると機構のタスクフォースも仰っていました。今回はOSCEでの評価に関する研修ではありましたが、そこで得た知識や経験をOSCEだけでなく他の様々な教育シーンで応用し、鹿児島大学における教育の改善につなげていくことが出来ればと考えています。